

前日に知ったダイアナ妃の死

イギリスのダイアナ王妃が、パリのセーヌ河畔で自動車事故によりこの世を去ってからあっという間に20年の歳月が流れた。薄幸の王妃を慕う声は今も絶えることがない。

1997年8月31日、ダイアナ妃は幼い2人の王子を残し、36歳の若さで突然旅立たれた。

深夜ダイアナ妃が乗った車が、後を追ったパパラッチの追跡から逃れるようにスピードを上げ、そのまま道路の中央分離帯に激突した。王妃は搬送された病院でパリ時間の8月31日午前4時息をひきとった。パリより9時間遅れのバンクーバーではその時、前日の30日午後7時を示していた。その後メディアは王妃死亡事故の詳細を刻一刻と伝えたが、私がホテルのテレビでこのビッグ・ニュースを知ったのは、その日30日の午後11時ごろのことだった。

偶々その日成田からカナダのバンクーバーへやって来て、夜のテレビ・ニュースで初めてダイアナ妃のあまりにむごたらしい事故死を知り衝撃を受けた。王妃の死を悼み、弔意を示して、テレビからは止むことなく重苦しい画像が流れていた。

その翌朝カナディアン・ロッキーを巡るパノラマ・カー「マウンテンア号」乗車のためバンクーバー駅へ来てみると、駅には半旗が掲げられていた。カナダは英連邦国のひとつで、歴史的にも殊更イギリスとのつながりが深い。国を挙げてダイアナ妃の突然の事故死を嘆き悲しんでいる気持ちが伝わって来た。

ダイアナ妃の不慮の死は世界中の話題をさらった世紀の一大悲劇となった。だが、旅行中は王妃が亡くなったという一事しか気にならなかった。帰国してから王妃がパリで亡くなったのが31日で、時差のせいとは言え、私とその事実を知ったのが前日の30日だったという不思議な巡りあわせに、幻想の世界を彷徨っているような心情に陥った。世界中の多くの人が忘れられない1日は、私にとっても生涯忘れられない特別な1日となった。